

ちくま大学 第5回

ジェイコブズ以後の経済学

塩沢由典

今回の構成

- 前回の補足(言い訳?)
- ジェイコブズに示唆を受けた経済学
 - R.ルーカス、E.グレイザー、R.フロリダ、Ch.ランドリー、宇沢弘文、日本の政策担当者
 - David Ellerman
 - 塩沢由典
- ジェイコブズと長期経済史
- まとめ

前回の補足

● 第2回の約束

- 4部作中、『経済の本質』と『アメリカ大都市』第4部⇒第5回

● 『経済の本質』

- 『環』別冊「ジェイン・ジェイコブズの世界」
- 経済は散逸構造だ。平衡系(均衡系)ではない。

● 『アメリカ大都市』第4部

- 「組織された複雑さの問題」⇒塩沢『複雑系経済学入門』『複雑さの帰結』『市場の秩序学』
- 『進化経済学の全体構想』(予定)

ジェイコブズに示唆を受けた経済学

- 諸概念
- 経済学
- 日本の社会科学

ジェイコブズが刺激した諸概念

- Social Capital (社会関係資本)
 - Putnam 『哲学する民社主義』『孤独なボーリング』
 - OECDに売り込む
 - “social capital industry”
- 第三の居場所(the third place)<Ray Oldenburg
 - *The Great Good Place: Cafes, Coffee Shops, Bookstores, Bars, Hair Salons, and Other Hangouts at the Heart of a Community*, 1999
 - ◆ The American tavern in the American Revolution
 - ◆ The French café in the French Revolution
 - ◆ The London coffee house during the Enlightenment
 - ◆ The agora in Greek democracy
- プレイス・メイキング(Project for Public Spaces)
- Advocacy Planning (宮崎論文)
- 複雑さと多様性(Complexity & Diversity) (谷口真美)
 - 直接の影響はない。ジェイコブズの取り上げたテーマの先駆性(post modernな問題意識)を象徴している。

都市を単位とした経済成長(1)

● ジェイコブズ効果

- R. ルーカス 合理的期待形成でノーベル賞、後年、経済成長にも関心、「ジェイコブズ効果」の命名者
- JJを高く評価、R.ソローとの違い
- The Mechanics of Economic Development (1988)

● E.グレイザー『都市は人類最高の発明である』

- ルーカスの弟子、[リバタリアン経済学者?(宮崎論文)]
- 都市を単位として成長を比較(Glaeser, Kallal, Scheiman and Shleifer 1992) [米170都市、1956⇒1987]
- 3仮説の比較 MAR (Marshall, Arrow and Romer) vs. Jacobs vs. Porter
- MAR外部性[地域独占?]は棄却、Porter外部性[同業間競争]は半ば(mixed)、Jacobs[variety & diversity]は両立する。

都市を単位とした経済成長(2)

●R.フロリダ/創造階級

■都市社会学

■『クリエイティブ資本論』『クリエイティブ都市経済論』など日訳多数

■都市の魅力を測る指標:

◆ Bohemian index, Gay index, diversity index など

◆ ゲイの多い都市は寛容で創造的?

■ Glaeser: Florida自身のデータでB-indexやG-indexより教育程度が重要と反論

ジェイコブズに影響を受けた経済学(1)

● 創造都市

- Greater London Council(1983/84)
- Creative Cities: British Council
- Creative Cities Network: UNESCO

● Ch. Landry (Comedia, 1978)、

- Hall, P. (1998). *Cities in Civilisation: culture, innovation and urban order.*
- Howkins, J. (2001). *The Creative Economy: How people make money from ideas.* 知識経済
- 佐々木雅幸、大阪市立大学創造都市研究科

ジェイコブズと日本の社会科学

● 都市論 『死と生』

- 都市社会学、都市地理学、...

● 宇沢弘文(香西泰、...)

- 『死と生』>『都市の経済学』、間宮論文
- 都市は、社会共通資本。
- 間宮さん 都市空間論

● 『市場の倫理 統治の倫理』

- 与那覇潤(中国化する日本)、山岸俊男(日本人というウソ)、松尾匡(商人道のススメ)

● 政策担当者:片山善博、松島克守、細谷裕二

- 『都市の原理』、『発展する地域 衰退する地域』

ジェイコブズに影響を受けた経済学(2)

- David Ellerman (UC Riverside; D. of Philosophy)
 - 数学、経済学、政治哲学、量子論理、
 - 進化論、ジェイコブズ、左派(労働者自主管理)
 - ◆ Jane Jacobs on Development, *Oxford Development Studies* 32(4): 2004
 - ◆ How Do We Grow?: Jane Jacobs on diversification and Specialization. *Challenge* 48: 2005
 - Parallel Experimentation, *J. of Bioeconomics*, 2014
 - ◆ 並列的実験の重要性、政策、道州制
- Sanford Ikeda, *Economic Development from Jacobsian Perspective* (2011)

ジェイコブズに影響を受けた経済学(3)

● わたしとジェイン・ジェイコブズ

- 『関西経済論』内編第6章
- 関西経済への動機、基礎(第2章第8節)、外編

● 意外な共通性

- 複雑系 複雑系経済学、『死と生』第4部
- 進化経済学 Ellermanによって繋がった。

● 経済発展とはどういう過程か

- いちばん重要なこと: 財・サービスの種類の増大
- カウフマン『自己組織化と進化の論理』p. 353、p.358
 - ◆ 数百から数百万(1万5千年)、十種類から1千万 (過去100万年)

ジェイコブズと長期経済史

- 世界経済史(global history)
- 世界史の中の産業革命
- 産業革命を準備したもの
- 生活水準の長期動向

世界経済史の全体像？

- アシュトン『産業革命』(岩波文庫、原1948)
- 長谷川清彦『産業革命』(世界史リブレット、2012)
- 水島司『グローバル・ヒストリー』(同上、2010)
- ダイヤモンド『銃・病原菌・鉄』原1997
- フランク『リオリエント』原1998、日訳2000
- ポメラッツ『大分岐』原2000、日訳2015

驚くほど似ていた一つの世界---。東アジアでも西ヨーロッパでも、発達した市場経済は生態環境の制約に直面していた。なぜ西欧だけが大きく分岐していったのか。今日にいたる世界経済の根源的な謎を明らかにし、新しい歴史像を提示したグローバルヒストリーの代表作

- 産業革命と資本主義をどう位置づけるのか

産業革命をどう見るか

● イギリスの高度成長期？

- N.R.F.クラフツ(1989) イギリス1780-1801年平均成長率1.3%。それ以前と比べて大差がない。
- プロト工業化(斎藤修)

● 実質賃金率？

- R.アレン『なぜ豊かな国と貧しい国が生まれたのか』
 - ◆ ロンドンの建築労働者の実質賃金率 1300年代から1850年代まで同水準[世界中でもっとも長い賃金系列]
 - ◆ 1860年代以降、急速に上昇

イギリス/西欧の勃興は奇跡か

●イギリス(西欧)の工業化・近代化

- 一度限りのものか
- どのくらい特異な現象なのか
- 川勝平太(物産複合)、速水融(勤勉革命H)
- ポメラッツ(17世紀まで、中国と西欧は同水準)

●日本・東アジア・中国・インドの台頭

- 西欧中心主義(史観)のゆらぎ/是正
- 世界システム/貿易(奴隷貿易)/植民地支配
- 工業化、資本主義化

実質賃金/生活水準の上昇

- 産業革命以前 マルサスの罠(?)
 - Oed Galor, *Unified Growth Theory*, 2011.
- 機械化・勤勉革命H化の説明
 - 機械化はなぜ生まれたのか
 - ◆ R.アレン:イギリスは高賃金>>産業革命
 - 勤勉革命H(人力注入)はなぜ生まれたのか
 - ◆ 杉原薫/大島真理夫 土地制約>>勤勉革命H
 - 新古典派価格理論内の発想?
 - ◆ 要素賦存比率が技術軌道を決定するか

ド・フリースの勤勉革命V

● J.de Vries, *Industrial Revolution*, 2008

- 産業革命を準備したものを需要(消費)面から説明
- 17世紀から家庭消費財の種類が増加
- ド・フリース:遺産相続書、サースク:日用品の増加

● 現金収入を求めて働きに出る。

- 青(聖)月曜日、長時間化、複数稼得化
- 女性学/女性史
 - ◆ 長い18世紀 夫婦ともに賃労働化
 - ◆ 19世紀 「夫は仕事、妻は家」の確立、所得水準の向上と家庭内生産の必要上昇(衛生など) 20世紀の逆転

実質賃金率は生活水準を示すか

- 実質賃金率=貨幣賃金率/パンの価格
- J.サースク『消費社会の誕生』(原1978)
 - 日用品の購入と種類が増大(17c以降)
 - 真鍮鍋、亜麻織物、金銀糸、帽子、ナイフ、レース、ポルタヴィス織、リボン、ひだ襟、石鹼、テープ
 - 輸出品:毛編靴下、編帽子、フェルト帽、鉄製品、フライパン、ナイフ、刀剣の刃、短剣、釘、ビン、硝子瓶、手袋、陶製壺、銅器
 - 技術要因: フランス・ベルギーからの企業家到来/招聘
 - [嗜好品 紅茶・コーヒー・砂糖・白パン、朝食の発明(長谷川貴彦)]
- アレンとサースクは両立するか
- エンゲル係数が0.6だとしても
 - 0.4の支出項目の価格が下落すれば、生活水準は向上する。

勤勉革命Vの批判・検討

● 日本

- 速水融 勤勉革命Hは機械革命を導かない。

● 産業革命の古典的イメージ

- 困込み、都市流入、劣悪な環境、長時間労働
- 生活水準低下をもたらした。(男性の身長低下)

● 勤勉革命V

- 働く側の積極的な意思
- 労働力の商品化(宇野弘蔵) 強制>自発性へ

Broadberry and Guptaの研究

- The Early Modern Great Divergence: Wages, Prices and Economic Development in Europe and Asia, 1500-1800. *Econ.Hist.Rev.* **59**(1)2-31、2006.
- Pomeranzらの主張の検証
 - アジアとヨーロッパ、ヨーロッパ域内、職種の違い
- 賃金格差(Table 1、Table2)
 - 銀表示, 熟練・非熟練, 地域, 16c前半→19c前半
 - 熟練/非熟練(ロンドン)1.6, 1.5, 1.6, 1.5.1.4, 1.5, 1.6

仮説的に(産業革命を需要面で見ると)

- 非熟練労働者が生存賃金状態にあったとしても熟練労働者には、収入の1/3(非熟練労働者の収入の1/2)は余裕があった。
- 実質賃金指数は一定でも、生活水準の向上がありえた。
- 多様な消費財への需要が賃労働者と製品需要とを作りだした。
- 生態的制約を突破できたとき、急速な成長が始まった。

ジェイン・ジェイコブズに戻ると

● 小さな(多様な)新商品

- 経済学/史の本流 大産業主義
- マクロ経済学は基本的に一財モデル
 - ◆ 財の種類、構成の変化を考えなくてもよい。
 - ◆ フォン・ノイマン成長径路でも同じ
- 経済史の大きな変化も小さな進化の累積効果

● 現在の問題: 需要飽和

- 1992年以来の25年: ケインズ政策、小泉改革、金融政策(アベノミクス): ことごとく失敗
- 原因の一つ: 経済学の基本骨格に需要飽和が欠けている。

需要飽和:現在の状況

● 2つの主要因

■ 所得格差と需要

- ◆ 高所得者の消費需要(米2012、400人が資産50%)
- ◆ 中産階級の実質所得が低下(日米とも)

■ 期待されていて伸びていない分野

- ◆ 保育、介護、医療、教育(大学院教育)
- ◆ これらの特質: 情報の非対称性が強い。品質保証の制度が必要。

● 新自由主義では対応できない。

- 所得税制と社会保障(年金制度)
- 西欧・北欧型の社会民主主義?

まとめ

- J.ジェイコブズは、都市に視点をおいて経済発展とその機構を考察した。
- その視点は画期的だったが、経済学はそれをまだじゅうぶん消化できていない。
- ジェイコブズの視点は、日常の生活から長期経済史を透視するところまで及んでいる。
- 従来の常識に反省を迫る知見をもたらしている。